

2018年3月期 第3四半期 説明資料

株式会社高松コンストラクショングループ

証券コード:1762

2018年2月14日

本資料に記載されている将来に関する記述は、本資料作成日現在で入手可能な情報にもとづいて作成したものであり、実際の実績等は今後様々な要因によって異なる可能性があります。また、当資料は投資家判断の参考となる情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却を勧誘するものではありません。

市場環境認識と高松コンストラクショングループの成長イメージ

(2017/5開示の中期経営計画資料より)

環境認識

プラス要因

- 国内建設投資額は50兆円を上回る水準が3年は持続すると見る。
- 東名阪の世帯数は高水準を維持、新築住宅着工も好調持続を予想。
- 首都圏の賃貸マンション建設は当面好調が継続すると見る。

マイナス要因

- 国内建設投資は中計終了年度の2020年以降、縮小の見通し。人口も縮小トレンド加速。
- 建設労働者の減少に伴う原価の上昇トレンド。
- 賃貸マンション需要が金利上昇・空室率UPなどで急速にしばむリスクあり。
- 新設工事件数の減少。

高松コンストラクショングループとしての成長イメージ

1. 好調な首都圏の賃貸マンションを成長の中核とし、受注拡大・持続的成長を可能にする体制構築を目指す。
2. その反面、中長期的に市場が現状並みから縮小すると考えられる土木・官公庁関連事業は、堅実なシェアアップ・高利益率の持続を目指す。
3. 上記が実現できる経営基盤も整備。

グループ別 受注高・売上高・売上総利益（連結）

1. 受注高は0.9%減の1,859億円、土木は増加したものの建築は減少。
2. 売上高は15.6%増の1,765億円。土木は青木あすなろ建設G好調で20%増、建築は高松建設G好調で9%増。
3. 営業利益は7.2%の減。建築は前期の高採算案件等の影響で反動減も、土木は売上増により42%の大幅増益。

高松コンストラクショングループ

高松建設グループ

青木あすなろ建設グループ



高松建設グループ		青木あすなろ建設グループ		高松コンストラクショングループ		受注高	売上高	営業利益
高松建設		青木あすなろ建設		高松コンストラクショングループ		17/12	17/12	17/12
高松建設		青木あすなろ建設		高松コンストラクショングループ		(16/12)	(16/12)	(16/12)
高松建設	高松建設	島田組	新潟みらい建設	土木	土木	844	790	49
高松サービスクン	高松サービスクン	あすなろ道路	東興シオテック	建築	建築	(775)	(658)	(35)
高松サービスクン	高松サービスクン	青木マリン	青木建設工業	不動産	不動産	+9%	+20%	+42%
住之江工芸	住之江工芸	エムズ	青木あすなろ建設			890	851	55
J.P.ホーム	J.P.ホーム					(1,012)	(781)	(77)
金剛組	金剛組					△12%	+9%	△28%
中村社寺	中村社寺					124	124	8
高松エステート	高松エステート					(87)	(87)	(6)
高松サービスクン	高松サービスクン					+43%	+43%	+20%
高松サービスクン	高松サービスクン					1,859	1,765	89
高松サービスクン	高松サービスクン					(1,875)	(1,526)	(96)
受注高	738	1,122	1,122	1,859	1,859	△0.9%		
17/12	(753)	(1,129)	(1,129)	(1,875)	(1,875)			
(16/12)								
売上高	642	1,128	1,128	1,765	1,765	+15.6%		
17/12	(532)	(995)	(995)	(1,526)	(1,526)			
(16/12)								
営業利益	41	55	55	89	89	△7.2%		
17/12	(40)	(60)	(60)	(96)	(96)			
(16/12)								

単位:億円

業績(連結)の推移

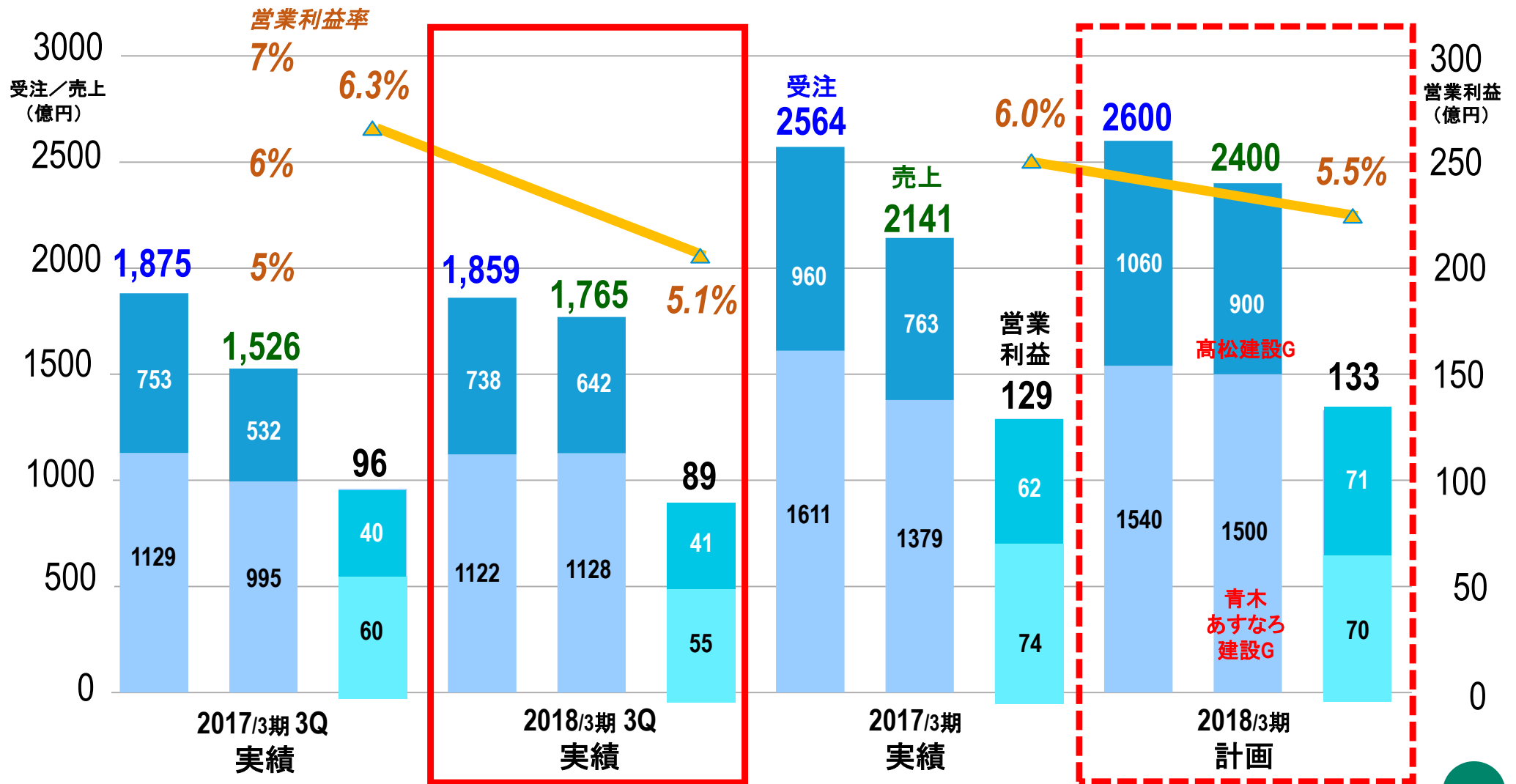
1. 受注高: 対前期 $\Delta 0.9\%$ の微減。
2. 売上高: 対前期 $+15.6\%$ の大幅アップ。6期連続増収、5期連続過去最高の第3四半期。
3. 利益: 前年同期に高採算建築案件の完工が多かった反動減もあり、
対前期で営業利益は 7.2% 減、経常利益は 7.2% 減、当期利益は 7.0% 減。

単位:億円

項目 (単位:億円)	2017/3期 Q3	2018/3期 Q3	増減率(%)
受注高	1,875	1,859	$\Delta 0.9\%$
売上高	1,526	 1,765	15.6%
売上総利益 (売上総利益率)	227 (14.9%)	 236 (13.4%)	3.7%
営業利益 (営業利益率)	96 (6.3%)	89 (5.1%)	$\Delta 7.2\%$
経常利益 (経常利益率)	96 (6.3%)	89 (5.1%)	$\Delta 7.2\%$
親会社株主帰属四半期純利益 (四半期純利益率)	51 (3.4%)	47 (2.7%)	$\Delta 7.0\%$

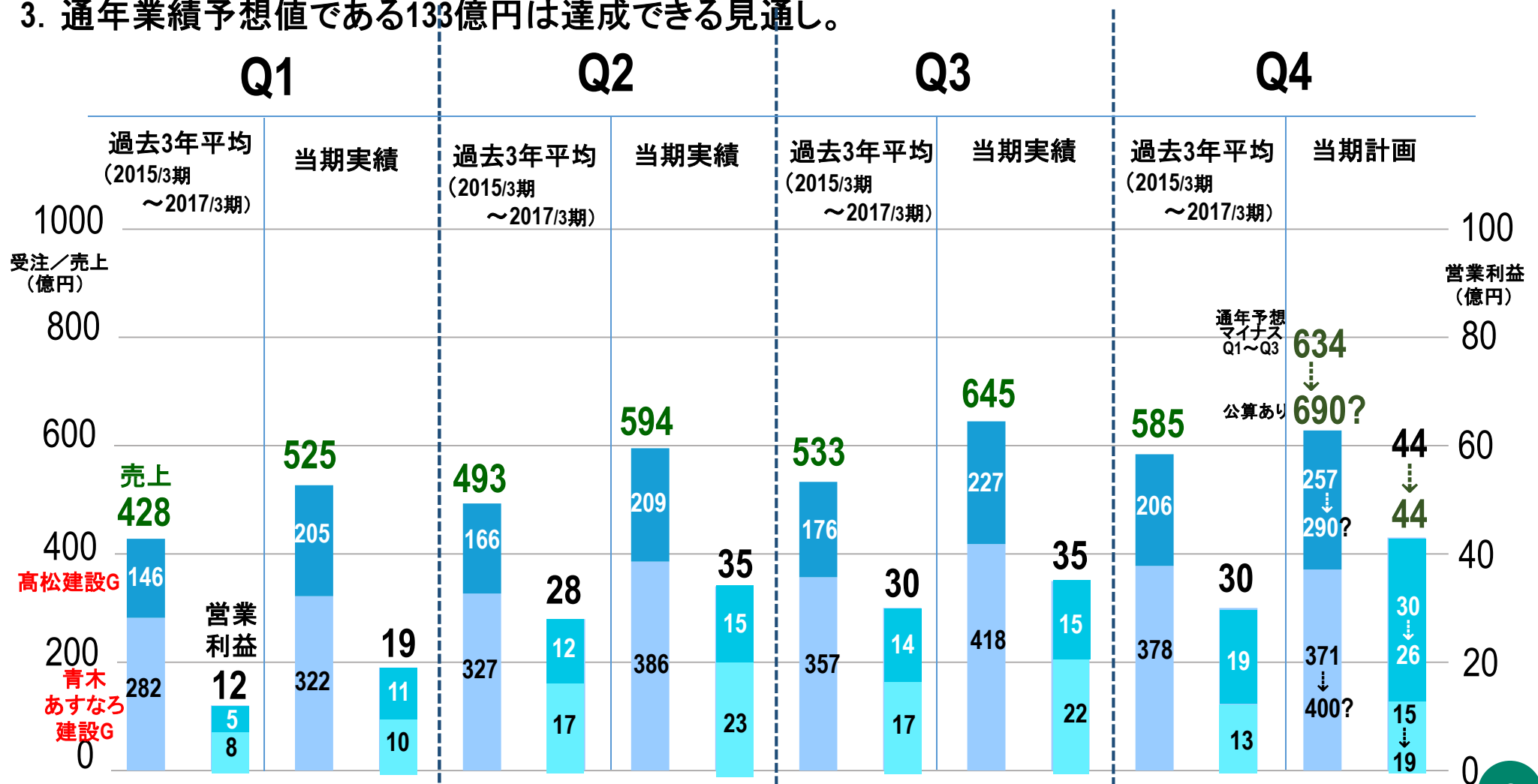
グループ別 受注高・売上高・営業利益の推移と見通し (連結) (1)

1. 受注高: 昨年度のような大型案件がない中で、ほぼ前年並み実績。
2. 売上高: 昨年度を大幅にクリア。目標の2,400億円を上回る公算大。
3. 営業利益: 高松Gは微増なるも昨年度高採算案件があった青木あすなるGは60億円から55億円に減少。



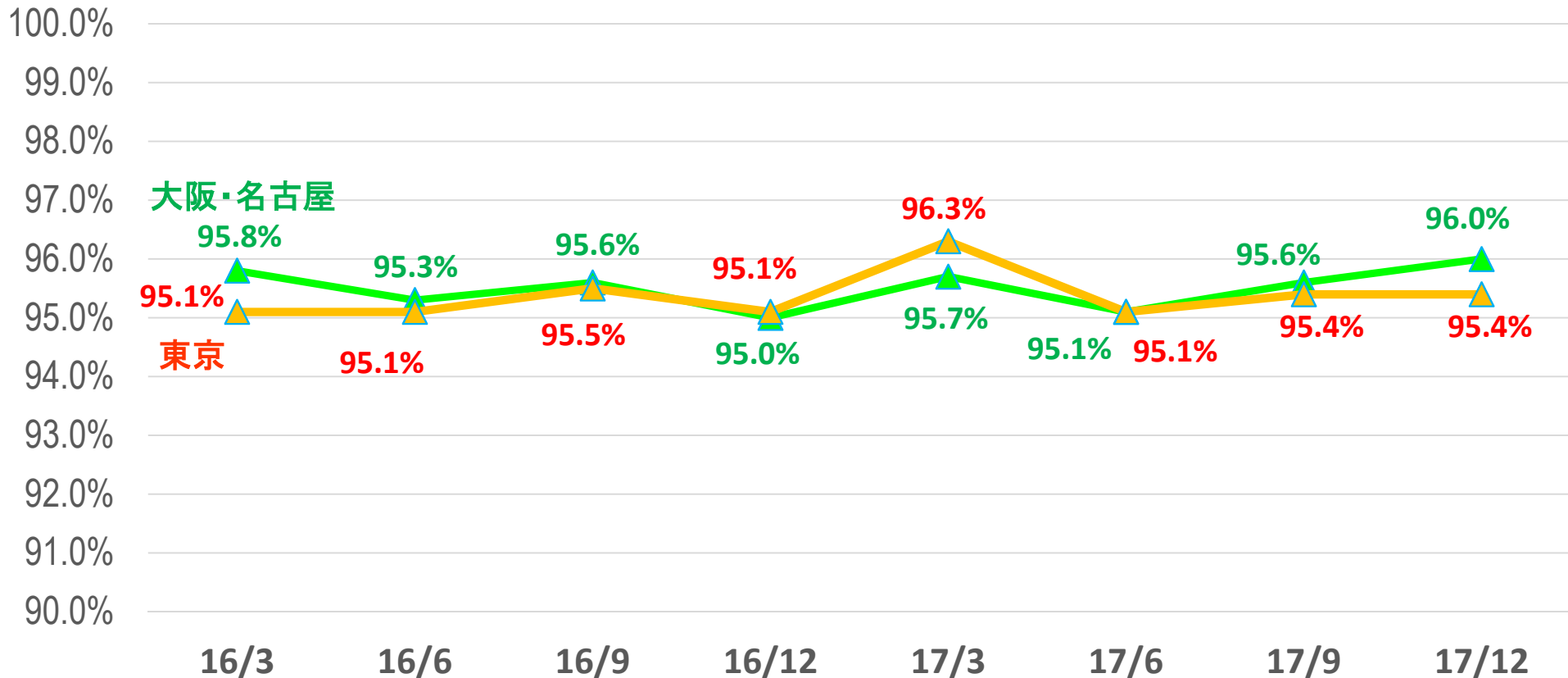
グループ別 受注高・売上高・営業利益の推移と見通し (連結) (2)

- 過去3年及び2018/3期の売上高と営業利益を四半期ごとに分解すると以下の通り。
 - 4Qの当期数値は上段が通年業績予想から、1Q~3Q実績を差し引いた数値。
 - " 下段が現在、公算ありと考える数値。
- 4Q営業利益は、高松Gは目標数値をやや下回る見通しだが、青木あすなるGが過達となる見通し。
- 通年業績予想値である133億円は達成できる見通し。



高松エステートにおける高松建設施工物件の入居率

1. 東京・大阪ともに、入居率は17年12月も95%以上を維持している。



定義 「大阪・名古屋」=大阪府、京都府、兵庫県、名古屋市
「東京」=東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県
「入居率」=各四半期末時点の高松建設施工物件の入居戸数
÷各四半期末時点の高松エステート(大阪、東京)が
管理している高松建設施工物件の総戸数